

社会科 遠隔学習指導 実践報告

1. 学年と単元・題材 2年「イギリスはなぜEUを離脱したのだろうか」

2. 教材について

本時は学習指導要領の地理的分野の内容（１）「世界の様々な地域」のウ「世界の諸地域」（イ）「ヨーロッパ」を受けて設定したものである。3時間構成の最終時であり、ヨーロッパ州の地域的特色を理解させるため、「イギリスはなぜEUを離脱したのだろうか」という主題を設定した。

2016年6月に行われた国民投票の結果、イギリスはEUを離脱することを決めた。そして、2020年2月1日午前0時を持って正式に離脱した。20世紀に起こった2度の世界大戦を経て、ヨーロッパ諸国は団結を強め、世界への影響力を高めると同時に地域の平和を図るためにEUが結成された。ヨーロッパ州が統合を進めた背景には、比較的狭い地域に気候や食べ物もそれほど差異がない国々が隣接していること、いずれの国もギリシャ・ローマ文明をルーツとするキリスト教社会という共通性など、ヨーロッパ諸国がもつ地域的特色がある。一方、原加盟国と新規加盟国の間の経済格差、加盟国内の経済不安・失業問題、移民や難民受け入れに対する姿勢の違い等、一つにまとまることへの疑念の声も徐々に大きくなっていったのも事実である。特に共通通貨ユーロを導入しないなど、EUに対して一定の距離を保っていたイギリス国内に不満が広がっていた。今までの世界の諸地域学習の中で、生徒たちはASEANなどの地域統合の動きについて学んでいる。イギリスのEU離脱はそれらの世界の趨勢に大きな影響を与える可能性がある。生徒たちの生活にすぐに直結するとは言えないものの、今後のヨーロッパ、そして世界の動きに大きく関わると考え、この主題を設定し追究させることとした。

なお、本時はもともと1年時に学習する内容であったが、休校措置のため遠隔授業にて2年時に実施した。イギリスのEU離脱問題はただでさえ様々な要素が絡み合い、中学生が理解するにはかなり難解な内容である。遠隔授業の中ではたしてどの程度理解できるのかと授業者自身迷いがあり、主題を変更することも考えた。一方で、遠隔ならではの特性を活かし、対面授業では見えなかった可能性を模索したいと考えて授業を構想した。授業再開が延期されることが決まった4月末にEU離脱のメリットとデメリットを分析するワークシートを郵送した。同時に、2016年6月の国民投票前後の新聞記事をまとめたコピーを送り、事前に新聞記事からメリットとデメリットを分析する活動を行ってから授業に臨むようにさせた。ヨーロッパ州の学習は3時間構成としたが、いずれの授業でも教科書、地図帳を用いて作業ができるワークシートを郵送し、その内容に沿って授業に取り組ませるようにした。

授業動画はパワーポイントのスライドをZoomで録画保存し、授業時間に合わせて当日に配信する方式を取った。遠隔授業はすべて同じスタイルを取って実施した。特に世界地理の単元は事前にワークシートに取り組んでいるという前提で動画を作成している。授業時間が35分と短いことから、対面授業であれば授業中に取り組ませている内容を家庭で行わせることがねらいである。

また、すぐに質問ができるように、「質問コーナー」を作り、疑問点や意見を気軽に寄せられる機会も保障した。さらに、生徒の意見は匿名の上、Moodle上で公開し、相互に見ることができるように工夫した。本時に限らず生徒に意見を求める課題を提示した際には、必ず匿名を条件に公開するようにしている。これは、生徒からの「みんなの考えを知りたい」という意見を受けたものである。離れてはいるが、生徒・教師が相互に交流する機会を経て、つながっている感覚を持つことができた点も遠隔授業ならではの特徴であろう。

3. 本時の目標・評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ヨーロッパ州における地域統合の拡大と離脱の動きについて探究する問いを基に、多面的・多角的に考察し、イギリスのEU離脱に賛成か反対か理由とともに説明することができる。	ヨーロッパ州における地域統合の拡大と離脱の動きについて探究する問いを基に、ヨーロッパ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えさせる。

4. 生徒の学習の実際

授業は事前に配布した国民投票時の新聞記事の内容を踏まえつつ、イギリスが EU 離脱を決めた背景をまとめたスライドを作成し、解説しながら進めた。そして、授業の終末に「あなたはイギリスの EU 離脱を支持しますか、反対しますか」という問いを提示し、約 1 週間後に提出するよう求めた。

生徒たちの意見を分析すると、一方に偏ることなくほぼ賛成・反対が半々に分かれる結果となった。教室内での意見交流の機会が無かったために、他者の意見に左右されず自分で判断する意識がより高まったのではないかと考えられる。また、対面授業時と比べても学習に取り組む姿勢に差は感じられず、大変熱心に自分の考えを述べている様子が見られた。自宅学習の時間を有効に使って、自分の考えを練り上げていると感じる。特に根拠に基づいて理由が述べられている意見が多かったのが印象的である。例えば、「離脱をすることで、たくさんの人の職が減ってしまう可能性があります。自動車などの輸出産業。貿易に関税がかかることになるので、以前に比べ EU 加盟国内での売れ筋は悪くなるかもしれません。現在は、イギリスから撤退する外国の企業が増えています」等である。また、「(日本と EU 間に) 去年 2 月に EPA (経済連携協定) が発効されました。EU からイギリスが抜けるとなると、この EPA の対象から外れるということになります」等、授業動画の内容に留まらず、自ら様々な資料を参照してまとめた意見も見られた。さらに、「イギリスが EU の一員である方が日本にはメリットが多いが、イギリス人と考えれば、移民や EU の負担金などデメリットが多い」「もし日本もイギリスと同じように移民がたくさんやってきたらどうするのだろうと疑問に思いました」と、様々な立場からこの問題を捉えようとする姿も見られた。ちょうど授業日頃の EU 内のコロナ支援金の拠出合意のニュースを受けて、EU 離脱に反対する生徒も見られた。生徒の記述を読む限り、対面授業ができないことによる理解不足が感じられなかった点は成果である。

5. 生徒の学習効果と展望

社会科の遠隔授業の振り返りアンケートを行ったところ、全 13 回の遠隔授業のうち、この EU 離脱問題を扱った授業を印象深いと回答した生徒が最も多いことが分かった。事前に新聞記事を使って調べ、まとめる活動を行っていたことに加え、争点をしぼり、生徒たちの意思決定を促す授業動画を作成したことにより、EU が抱える問題に対して探究心が芽生えたと考えられる。生徒たちが印象深く思った理由として、「聞いたことはあるがあまり詳しく知らなかった内容を今回の授業で知ることができた」と挙げた生徒が複数見られた。遠隔授業においても対面授業と同様に理解できたことがうかがえる。一方で、「EU 離脱に賛成派、反対派に分かれて討論したかった」という意見も寄せられた。そのような機会をつくることが出来なかったことは口惜しいが、それだけ学びに向かう姿勢が高まった証左であると捉えたい。対面授業で行ってきたことを全て遠隔授業に移行するのではなく、遠隔授業ならではの良さを活かした授業構成を考えることで、さらに学習効果を高めることができるのではないだろうか。アンケートでは総じて対面での授業と違和感なく取り組めたと授業については前向きな意見を聞くことができた。本来、ICT を活用する際、情報発信、情報共有、相互交流の機能がメリットとして挙げられる。それらの活用がままならない環境の中で、いかに学びを深めることができるかが課題である。